

編集 後記

第66巻8号をお届けいたします。本号では、特別論文1編、原著1編、公衆衛生活動報告1編、資料2編が掲載されています。

特別論文では、日本公衆衛生学会学術総会で実際に実施された「賛否の分かれる公衆衛生対策に関するディベート」について、実施に至る準備や内容、実際の討論内容が簡潔にまとめられています。最近、聴衆参加型シンポジウムが注目を集めていると思いますが、このようなイベントを行う際に役に立つポイントがわかる良質な資料となっています。

原著では、妊婦要因と低出生体重児、流産・死産児の関連が検討されています。この研究は地域の妊娠届出書と出生連絡票を突合したデータベースを用いた有益な研究であり、わが国の母子保健分野のエビデンスがまた一つ増えました。

公衆衛生活動報告では、福島第一原子力発電所事故による避難指示解除区域を対象に、地域の自殺死亡率の推移と、当該自治体における自殺・メンタルヘルス対策の実践が取り上げられています。この活動報告には現在の被災自治体のこと、そこで展開されている公衆衛生活動が詳細に書かれており、地域診断から計画、そして地域活動へ向かう様が、いきいきと伝わってきます。

資料ではインターネットに関連した話題が2つ掲載されています。一つ目が成人800人を対象に発達障害に対する認知状況を調べたインターネット調査の結果で、二つ目は子供の長時間インターネット使用と関連要因の探索についての調査結果です。いずれも興味深い結果であり、私たちの現代の生活はインターネットが不可欠である現状と、インターネットの使用には様々な課題が潜んでいることを再認識しました。

本誌が届くころ夏休みも佳境を迎えていると思われます。大いに気分をリフレッシュするとともに、研究・教育そして公衆衛生活動の現場に生き生きとした姿で戻られることを期待し、ペンを置きたいと思います。

(村上義孝)

次号予告 (第66巻・第9号)

特別論文

精神科救急医療体制の現状と課題：日本公衆衛生学会モニタリング・レポート委員会精神保健福祉分野活動総括……………吉益光一、他

原著

兵庫県養父市におけるシルバー人材センターを機軸としたフレイル予防施策のプロセス評価およびアウトカム評価……………野藤 悠、他
通院治療中のがん患者における休職関連要因とQOL ……………小玉かおり、他

公衆衛生活動報告

文献検討に基づく介護予防サポーター養成プログラムの作成と効果……………田口敦子、他

資料

小・中学生の保護者を対象とした「子ども食堂」に関するインターネット調査……………黒谷佳代、他